

感染症定期報告感染症別文献一覧表
(平成22年12月1日～平成23年3月31日)

資料4-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	C型肝炎	Hepatology. 2010 Dec 8.	C型肝炎ウイルス(HCV) 遺伝子型4の管理: 国際的専門家委員会の推奨について。HCVは6つの主要な遺伝子型と一連の亜型に分類される。HCV遺伝子型は、そのヌクレオチド配列、地理的分布と治療への反応に関してそれぞれ特徴を持つ。遺伝子型4は、HCV感染の80%以上を占め、分布はエジプトとアフリカの一部に限られていたが、現在はヨーロッパ諸国に拡大している。HCV-4は慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、肝移植の主な原因と考えられている。現在世界中の慢性C型肝炎のうち約20%がHCV-4によるものである。HCV-4は広範囲な研究の対象ではなかったが、今回、国際的専門家委員会によって疫学・自然史・臨床・病理学的特徴と治療に関しての概説が示された。
2	E型肝炎	HPA/Emerging Infectious Monthly Summaries August 2010 (参考: J Infect Dis. 2010 ;202(6):825-834)	J Infect Dis誌で、ヒトへのE型肝炎感染源としてブタ肝臓ソーセージ、フィガテルの可能性が示唆されたことについてHPA月例定期報告で報告された。生フィガテルを摂取した人では7/13人で、生フィガテルを摂取しなかった人では0/5人でHEV感染が観察された。HEV RNA遺伝子型3型が、スーパーマーケットで購入可能な12のフィガテルのうち7フィガテルにおいて検出された。これらフィガテル由来のHEV RNA塩基配列は生フィガテルを食した患者由来の塩基配列と統計学的に有意な遺伝的関連が認められた。
3	E型肝炎	Lancet. 2010 Sep 11;376(9744):895-902. Epub 2010 Aug 20.	健康成人における組換えE型肝炎ワクチンHEV239 (Hecolin; Xiamen Innovax Biotech, Xiamen, China) の有効性及び安全性を多施設共同無作為二重盲検プラセボ対照試験(第Ⅲ相)により評価した。中国の江蘇省で16～65歳の健康成人において、HEV239群とプラセボ群を1:1に無作為割付けを行い、HEV239群にはHEV239ワクチンを、プラセボ群にはB型肝炎ワクチンを0、1、6カ月に1回(全3回)筋注投与し、19カ月間追跡調査された。主要評価項目は3回目の投与後31日目から12カ月の間のE型肝炎の予防効果とされた。参加者はHEV239群(n=56,302)またはプラセボ群(n=56,302)に無作為割付けされ、うち、全3回の接種を受けたHEV239群48,693名(86%)とプラセボ群48,663名(86%)が有効性の一次分析にかけられた。参加者のうち11,165名がE型肝炎ウイルスIgGの検査を受け、そのうち5,285名(47%)が抗体陽性であった。3回目の投与30日後から12カ月間に、プラセボ群の15名がE型肝炎を発症したのに対し、HEV239の有効性は100.0%(95% CI 72.1-100.0)であった。HEV239に関連する重篤な有害事象は示されなかった。以上よりHEV239は、中国の一般集団におけるE型肝炎の予防に有効であると結論づけている。
4	E型肝炎	ProMED-mail 20101023.3849	英国Cornwallでは、まれな肝疾患であるE型肝炎で3名が死亡、渡航歴のある少なくとも55名が発症した。E型肝炎は一般に不衛生な環境を原因として発症し、これまで英国人の患者は海外で感染したものと想定されていた。しかし、ある医師は、診察した最近の患者は通常の判断基準に合致しないと述べている。患者は渡航歴がないだけでなく、ウイルス感染の一般的な年齢範囲(他国では、一般的に若年層に感染している)に合致せず、中高年及び高齢者、とくに男性に見られる。医師は、主たる原因は生ブタ肉への接触であると考えている。
5	E型肝炎	Vector-Borne and Zoonotic Diseases 2010;10(8765):765-770	中国の家畜におけるE型肝炎ウイルス(HEV)の血清学的感染率とHEV遺伝子型4型の多様性について報告された。中国の家畜のHEV感染率を評価するために血清3579検体(豚1967匹、ヤギ700匹、牛912頭)を26省から収集し、酵素免疫測定法にてHEV抗体及び抗原の検出を行った。その結果、豚検体の82.2%が抗HEV抗体陽性であったが、ウシ検体では10.4%、ヤギ検体では28.2%であった。HEV抗原陽性は、豚1.9%、ヤギ1.6%、牛0.8%であった。HEV抗原陽性を含む検体のいくつかでHEV RNAの検出を試みたところ、豚15検体が陽性であり、ヤギ及び牛からは検出されなかった。遺伝子及び系統学的解析から、すべての豚のHEVがHEV遺伝子型4型であった。
6	E型肝炎	Vox Sanguinis 2010,99(Suppl.1) 1-516	血漿分画プールにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の広範囲な分布について、血漿分画プール中のHEV RNAの存在と抗HIV IgG抗体の濃度から検討された。その結果、約10%の血漿分画プールがHEV RNA陽性で、陽性プールの地理的分布はヨーロッパ、北アメリカ、東南アジアの数カ国を含み、広範囲にわたっていた。同定された株の系統発生解析により、genotype4がアジアのプールに限定されていたのに対し、genotype3はヨーロッパと北アメリカのプールで確認された。IgG抗HEV抗体とHEV RNAの間で相関関係は見られず、抗HEV抗体の濃度はアジアのプールでより高かった。以前HEV RNAが日本と中国の供血者で確認されたのに対し、血漿分画プールにおけるHEV RNAの分析はこれまで報告されることがない。血漿分画製剤のHEVのリスクを判定するために、異なるプールのHEV RNA量を測定する調査が現在行われている。
7	E型肝炎	Vox Sanguinis 2010,99(4)、307-313	日本の献血適格者におけるE型肝炎ウイルス抗体(HEV IgG)陽性率に関する全国調査について報告された。日本のほぼ全域を代表する7つの血液センターにおける献血適格者(HBV、HCV、HIV-1/2、HTLV-1、梅毒、ヒトパルボウイルスB19 が全て陰性)から各1,800検体、計12,600検体を採取し、HEV IgG ELISAを実施した。その結果、431検体(3.4%)が陽性で、HEV IgG陽性率は西日本(1.8%)より東日本(5.6%)で高く、年齢依存的であり、女性(2.9%)より男性(3.9%)で高かった。
8	HIV	Euro Surveill. 2010 Dec 2;15(48)	欧州連合(EU)と欧州経済領域(EEA)の28カ国から、2009年に新たにHIV感染と診断された25,917症例について報告された。新規感染者の割合はエストニア、ラトビア、イギリス、ベルギーの順で高かった。主要な感染経路は男性間の性的接触(35%)であり、ついで異性間性的接触(24%)であった。全体として2009年のHIV症例数は増加したが、AIDS診断の報告は減少している。HIV感染と診断された時にCD4細胞数が350 cells/ μ L未満の感染後初期初診患者が多いことは、適切な時期に治療を受けられなかったことを示唆しており、考慮すべきである。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
9	HIV	MMWR Vol.59 No.41	2008年、Missouri及びColorado州における輸血を介したHIV感染について報告された。2008年11月Missouri州において献血した男性の血液がHIV陽性であった。回顧的調査により、この供血者は2008年6月にも献血をしていたことが確認された(この時点では検査でHIV陰性)。この供血者からの血液成分の輸血を受けた受血者2例のうち、2008年8月にColorado州で新鮮凍結血漿の輸血を受けた1例においてHIV感染が判明した。調査によって受血者の感染はこの供血者からの血液製剤から伝播したと判定された。
10	HIV	Transfusion. 2010 Dec;50(12):2707-12	2005-2007年のHIV-1非B型及び抗レトロウイルス薬剤耐性株に関する米国の供血者における広範な評価について報告された。1999-2005年までの米国のHIV感染供血者66人では、4.7%がHIV-1非B型、6.5%が抗レトロウイルス薬剤耐性HIV-1であった。今回、2005年1月-2007年12月に収集した感染確定例197例と最近感染した症例11例を対象として調査を行った。HIV感染供血者の検出は、FDAが認可した検査により行った。プロテアーゼ及び逆転写酵素遺伝子の薬剤耐性プロファイルは、遺伝子タイピングシステム(ViroSeq, Celera Diagnostics)により決定した。サブタイプは、これらの配列を系統発生解析することにより得た。計208検体のうち203検体について、薬剤耐性プロファイルが得られ、そのうち9.9%が薬剤耐性変異を持っていた。10例が1つの薬剤に耐性を示し(9例が非核酸系逆転写酵素阻害剤(NNRTIs)に、1例が核酸系逆転写酵素阻害剤(NRTIs)に耐性)、8例が2つの薬剤に耐性を示し(5例がNNRTIとNRTIに、2例がNRTIとプロテアーゼ阻害剤(PI)に、1例がNNRTIとPIに耐性)、2例が3つの薬剤に耐性を示した。非B型株はHIV感染供血者の2.5%で同定され、サブタイプA1、D、CRF02_AG、CRF43-02G、およびURF_BFから構成されていた。本研究と従来の研究から、抗レトロウイルス薬剤耐性HIV-1が1999-2007年のHIV感染供血者の9.1%に存在(感染確定例の9.3%、最近感染した例の6.9%)することが示された。また、米国の供血者において、HIV-1非B型はHIV感染症の3.0%を占めた。
11	HIV、HCV	Daily News & Analysis India Jul.12,2010	2010年7月12日、インド、Jodhpurにおいて20人以上の小児が輸血によってHIVやHCVに感染したことが報告された。3人が5月にHIVに感染していることが判明し、17人がHCV陽性であった。2008年12月に、同病院で輸血後に少なくとも5例がHIVに、29例が肝炎に感染していた。
12	HIV、HCV	ProMed-mail20100714.2358	インドRajasthanの病院で、小児サラセミア患者20人以上が輸血後にHIV検査陽性およびC型肝炎に感染したという申し立てがあった。同病院では2008年にも同様の事例があり、措置が取られていなかった。現在用いているELISAではなく、NATを導入しウィンドウピリオドの短縮を図ることが要請された。
13	HTLV	Blood. 2010 Aug 26;116(8):1211-9	無症候性ヒトT細胞白血病ウイルス I 型(HTLV-1)キャリアにおける日本国内の前向き調査:無症候性HTLV-1キャリアにおける成人T細胞白血病(ATL)発症のリスク因子は、現在も不明である。近年、HTLV-1プロウイルス量は、ATLの重要な予測因子として評価されているが、少数の小規模前向き試験が実施されているだけである。2002年~2008年に、登録された無症候性HTLV-1キャリア1,218名(男性426名、女性792名)を前向きに評価した。登録時のプロウイルス量は、女性と比べ男性(末梢血単核細胞(PBMCs)100あたりの中央値1.39 vs 2.10; P<0.001)、40歳以下の集団に対し年齢40~49歳および50~59歳の集団(それぞれP = 0.02, 0.007)、ATL家族歴を有さない集団に対し有する集団(PBMCs 100あたりの中央値1.33 vs 2.32; P=0.005)の方が、有意に多かった。14名の登録者が顕在性ATLへ進行した。この登録者の登録時のプロウイルス量は多かった(範囲:PBMCs 100あたり4.17~28.58)。登録時のプロウイルス量が4コピー以下の登録者は、ATLを発症しなかった。また多変量Cox解析では、プロウイルス量だけでなく、高齢、ATLの家族歴、他疾患治療時における初回HTLV-1検査が、ATLの進行の独立リスク因子であることが示された。
14	レトロウイルス (XMRV)	ABC Newsletter #30.2010 Aug 27	MLV-related Virusと慢性疲労症候群(CFS)との関連を検討した研究について、及び英国での措置について報告した。PNAS誌では、健康成人からの供血者44名の6.8%において、MLV-like viralの塩基配列が認められたと報告されている。Science誌では、CFS患者101例中68例(67%)にXMRVが検出され、健康成人218例中8例(3.7%)にXMRVが検出されたと報告されている。ABC NewsletterではXMRVは前立腺癌と関連について報告されているが、最新の7月1日のRetrovirologyでは、これまでの結果を確認できなかったとしている。PNAS誌とScience誌の報告に基づいて、11月1日以降、英国ではCFS/ME(筋痛性脳脊髄炎)の罹患歴のある患者由来の献血を永久に延期した。
15	レトロウイルス (XMRV)	American Red Cross Latest Press Releases and Statements. December 03, 2010.	米国赤十字社からマウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)と慢性疲労症候群(CFS)に関して報告された。2010年12月3日現在、XMRV感染に関連するとされているCFSやその他の疾患を呈する者による供血を見送ることに、特定の連邦政府勧告は出されていない。しかし、患者と供血者の安全のため、米国赤十字社は問診でCFSと診断されたことがあると答えた供血者による供血を無期限で延期する。
16	レトロウイルス (XMRV)	Bloomberg News (2010 Dec. 21)	慢性疲労症候群(CFS)とマウスウイルスとの関連について、新規論文4報で、これまでと異なる見解が示されたことが報告された。米国、英国と日本の研究者らは、これまでの研究では、汚染された検体や試薬が使用されたために、CFS及び前立腺癌とXMRVとの関連性について誤った結論に至ったことをRetrovirology誌に報告した。米国赤十字社は2010年12月3日、前年に発表されたXMRVについての調査結果に基づき、CFS患者の献血を永久に禁止した。FDAはCFS患者の供血禁止を検討している。新規論文4報のうちの1報を報告した英国グループは「XMRVが原因ではないことを示したが、CFSはウイルスが原因ではないとは言っていない」と述べた。FDAによると英国、オーストラリア、カナダとニュージーランドはCFS患者からの献血を禁止することを決めた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
17	レトロウイルス (XMRV)	Proc Natl Acad Sci U S A. 2010 Sep 7;107(36):15874-9.	慢性疲労症候群(CFS)患者と健康な供血者の血液におけるマウス白血病ウイルス(MLV)関連ウイルス遺伝子配列の検出について報告された。最近、末梢血のPCR分析から健康成人218例中8例(3.7%)に対してCFS患者101例中68例(67%)と高率に異種指向性マウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)由来DNAが検出されたという研究報告があったが、続く4件の研究報告では、CFS患者の血液から当該DNAは認められていない。今回、CFS診断基準を満たす患者37名からの末梢血単核細胞由来DNA 41検体を調べ、37名中32名にMLV関連ウイルスgag 遺伝子配列を認めたが、健康ボランティア供血者では44名中3名にしか認められなかった。PCR分析システムまたは臨床検体において、マウスDNA混入の証拠は得られていない。全てのXMRVが遺伝的に近縁というこれまでの報告知見に対して、著者は遺伝的に多様なグループのMLV関連ウイルスを確認した。CFS患者由来のgagおよびenv 配列は、XMRVよりも多指向性マウス内在性レトロウイルスに近縁であり、さらに、同種指向性のMLV配列とは近縁性が低かった。MLV関連ウイルスと同一の強い関連性があるかどうか、これらウイルスがCFS発症において原因的役割を担っているかどうか、ならびにこれらが血液供給の脅威となるかについては、さらなる研究が必要である。
18	レトロウイルス (XMRV)	Retrovirology 2010;7:110	市販のRT-PCRキット内の内在性マウス白血病ウイルスゲノム(MLV)汚染は、XMRVのための標準プライマーの使用で増幅されることが報告された。日本で慢性疲労症候群(CFS)患者からの血清でXMRV感染症のウイルスRNAの存在を調査するパイロットスタディにおいて、XMRVの部分的gag領域を検出するRT-PCRキットを使用すると、陰性コントロール(水)でも陽性のバンドが頻繁に認められた。そのため、キット自体がMLVまたはXMRVで汚染されていることを疑い、2つの独立した研究所で、4種のRT-PCRキット(Invitrogen、TaKaRa、Promega、QIAGEN)の品質を評価した。Invitrogen社のキット使用により、増幅DNAの部分的gag領域のヌクレオチド配列は、7番染色体のpolytropic内在性MLV (PmERV)とほとんど一致(99.4%)、最近特定されたCFS患者に由来するMLV様のウイルスと非常に類似していた(96.9~97.6%一致)。また部分的env領域のヌクレオチド配列がPmERVとほとんど一致(99.6%)した。結果からInvitrogen社のキットの酵素混合物が、PmERVに由来するRNAで汚染されていることが明らかとなった。
19	レトロウイルス (XMRV)	Retrovirology. 2010 Dec 20;7:112	MLVをコードしている核酸による臨床検体汚染: XMRVと他のヒトレトロウイルス候補との関連について報告された。前立腺がん患者と慢性疲労症候群(CFS)患者でXMRVの感染を評価する研究は、臨床検体のPCR検査に頼り、大きく異なる結果を与えた。今般、Retrovirology誌において報告された4つ研究結果から、PCR分析において、DNAまたはRNAの汚染を除外するために必要な処置が示された。また、以前報告されたXMRV配列が、一般的に用いられる前立腺がん細胞株(22Rv1)に由来することを示唆している系統発生解析が提示された。これらの報告は、前立腺がん患者とCFS患者におけるMLV関連ウイルスの存在を裏付けるのに用いられているPCRの結果に重大な疑問を投げかけた。
20	レトロウイルス (XMRV)	Virology Journal 2010; 7:224	異種指向性のマウス白血病ウイルス(XMRV)が慢性疲労症候群(CSF)の病因に寄与するかどうかの最近の論争に対して、中国において調査を行った。CSF患者65人と供血者コントロール85人が登録され、multiplex real-time PCRまたはRT-PCRを行った。その結果、XMRVは、65人のCSF患者と健康成人65/85において検出されなかった。本研究で、中国のCSF患者の末梢血単核細胞と血漿中にXMRVは検出されなかったことから、XMRVとCFS発症との関連性を支持していない。
21	レトロウイルス (XMRV)	第58回日本ウイルス学会学術集会; 2010 Nov.7-9	マウス白血病ウイルス関連ウイルス(XMRV)抗体特異性の解析について報告された。これまでに同定されたXMRV抗体陽性例が真のXMRV感染によるものかどうかを知るためのひとつのアプローチとして、これら抗体陽性血清の反応特異性を精査した。抗体スクリーニングには、100倍希釈血清を用いて、XMRVのウイルス粒子を抗原としたウエスタンブロット(WB)を行った。スクリーニング対象は一般感染症検査に合格した献血検体から無作為抽出したもの500検体、2007年4月-2010年3月受診の前立腺がん患者67名、2010年4月-2010年6月受診の慢性疲労症候群(CFS)患者87名の計654名とした。WBスクリーニングで陽性は供血者8名(1.6%)、前立腺がん患者2名(3.0%)、CFS患者2名(2.3%)であり、グループ間の抗体保有率に有意差はなかった。これら陽性検体のGag p30抗体には3パターンの反応特異性が存在した。XMRV p30のみに結合するもの、Mo-MuLV p30に弱いながらも結合するもの、Mo-MuLV p30にもXMRVと同程度の強さで結合するものである。反応パターンと対象グループとの間に有意な関連性は認められなかった。Env1に対する抗体反応は通常のWBでもNative gelを用いたWBでも認められなかった。XMRV GagとMo-MuLV Gagのアミノ酸レベルでの相同性は約87%である。XMRV抗体陽性者の一部がMo-MuLVと交差反応し、反応強度にもばらつきがあることから、現在までに同定されたXMRV Gag抗体陽性例の必ずしも全てがXMRV既感染を示すものではない可能性が示唆される。
22	レトロウイルス (XMRV)	第58回日本ウイルス学会学術集会; 2010 Nov.7-9	慢性疲労症候群患者血液におけるマウス白血病ウイルス関連ウイルスの核酸調査について報告された。ヒト胎児腎由来株化細胞(HEK 293T)にXMRV持続感染前立腺癌細胞である22Rv1細胞の上清を接種し、この感染細胞から抽出したDNAを鋳型にしてXMRVのgag及びenv遺伝子領域を標的としたプライマー及びXMRV特異的なプライマーを用いてPCRの検出感度を調べた。次に2010年4月-2010年6月のCFS患者87名の血液細胞からゲノムDNAを抽出し、2種類のプライマーを用いてPCRを行った。また、gag及びenvのプライマーではコンタミでマウス白血病ウイルスを検出してしまふ可能性があるため、XMRV特異的プライマーも用いた。今回調査したCFS患者87名においてPCR解析で陽性は見られなかった。
23	インフルエンザ	Biologicals 38,2010,652-657	2009年のインフルエンザAウイルスH1N1の世界的流行が未だ猛威をふるっているが、このアウトブレイクによる血漿分画製剤の安全性への影響についてほとんど報告されていない。血漿分画製剤の安全性を評価するため、製造で使用される特定のウイルスクリアランス工程におけるウイルス除去効果が調査された。本研究では、インフルエンザAウイルスH1N1株A/NWS/33(H1N1)をモデルウイルスとした。アルブミンの製造工程では、パスツリゼーションだけでなくフラクションIV分画によりH1N1は不活化された。また、静注用免疫グロブリンの製造工程で、フラクションIII分画によって沈殿物中にH1N1は除去され、低pHインキュベーションにより完全に不活化された。第VIII因子の製造工程では、0.3%リン酸トリ-n-ブチルと1.0%トリトンX-100を用いたS/D処理で1分以内に完全に不活化され、また98°C乾燥加熱でも10分以内に不活化された。アンチトロンビンIIIの製造工程においても、ViresolveNFPフィルターでH1N1は除去され、パスツリゼーション処理で不活化された。以上の結果から、H1N1は一般に用いられるウイルスクリアランス工程により、効果的に不活化・除去されることがわかった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
24	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2010-11 Influenza Season week4 ending Jan29, 2011	第4週(2011年1月23日~29日)の米国におけるインフルエンザの活動性が増加した。新規のインフルエンザAウイルス感染症1例がペンシルバニア州において報告された。ブタ由来インフルエンザA(H3N2)ウイルスに感染しており、症状が発現した前の週に、ブタと接触していたことが報告された。2010年第44週にペンシルバニアから報告されたもう1例を含めて、2009年から2010年で米国では他に6例のH3N2ウイルス感染症例が確認されている。
25	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2010-11 Influenza Season week44 ending Nov 6, 2010	2010年11月6日のFluViewにおいて、米国においてブタ由来インフルエンザH3N2に感染した2症例(Wisconsin州及びPennsylvania州)について報告された。Wisconsin州の症例は2010年9月8日に発症する前の週にブタと接触しており、Pennsylvania州の症例は、ブタとの接触はなかったが、ブタ飼育場に近い地域に居住していた。2例の発症日は6週間以上離れており、ウイルスには遺伝的な違いがあることから同じ感染源ではないことが示唆された。
26	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2010-11 Influenza Season week49 ending Dec 11, 2010	第49週(2010年12月5日~11日)の米国におけるインフルエンザの活動性が増加した。インフルエンザAウイルスの新規のヒト感染症1例(Minnesota州)が報告された。症例は11月にブタ由来インフルエンザA(H3N2)ウイルスに感染し、発症する前の週にブタと接触歴があった。
27	インフルエンザ	CDC/MMWR 2010; 59(50)1651- 1655	2010年10月3日から12月11日までの米国におけるインフルエンザ活動性の報告である。新規のインフルエンザAウイルスとしては3症例(Wisconsin, Pennsylvania, Minnesotaから1例ずつ)が報告され、どれもブタ由来インフルエンザA(H3N2)感染であった。3症例に関連は無く、ウイルス株は類似しているが同一ではなかった。ヒト・ヒト伝播は先の2症例では認められず、3例目は調査中である。
28	インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases 2010; 16 (10); 1515-1523	ブタはトリインフルエンザウイルスのヒトへの感染過程で直接の宿主となるとこれまで考えられてきた。この可能性を検討するため、2005年-2009年、インドネシアにおけるブタについて調査を行った。2005年-2007年、4州にでブタ52頭に感染が認められた。系統発生的な解析から、少なくとも3つの特徴が示された。分離株の一つはヒト型の受容体を認識する能力を備えていた。感染ブタはインフルエンザ様症状を示さない。つまり、トリインフルエンザウイルスA(H5N1)は長期間の間、感染に気付かれずに複製し、容易に哺乳類宿主に適應する。ブタはH5N1ウイルスのアウトブレイクの間、感染リスクにさらされ、宿主となってトリウイルスが哺乳類に適應可能となることが考えられた。
29	インフルエンザ	IDWR Week 47 2010; 12(47) p.14	WHOの感染症アウトブレイクニュースからPandemic (H1N1) 2009 update 121についてIDWRで報告された。2010年11月19日現在、世界的にインフルエンザの活動性は、熱帯アジアや温帯南米の限られた地域を除いて、低いままである。南半球の温帯地域の冬期のインフルエンザ流行期は2010年10月初めに締結され、それ以来、わずかな伝播状況である。直近の今シーズンのインフルエンザの活動はアルゼンチンの北西部に位置するいくつかの州において報告されている。北半球の温帯地域の晩秋から冬期では、インフルエンザの活動性は、ヨーロッパ、北米、温帯アジアのほとんどの国で、ベースラインかあるいは、それ以下に保たれている。季節性インフルエンザB型とA型(H3N2)ウイルスが、世界的な循環を続けており、後者がわずかに優勢である。インフルエンザH1N1(2009)ウイルスの循環は、アジア全域及び他の地域では散発的に、低から中程度レベルの活動性として検出されている。10月24日から11月6日までに、計1442検体がインフルエンザウイルス陽性であり、1123検体がインフルエンザA型(23.8%がH1N1(2009)、75.5%がH3N2)、313検体がインフルエンザB型であった。その他のインフルエンザウイルスのヒトへの感染に関する情報として、米国における3系統の遺伝子再集合を起こしたブタ由来H3N2ウイルス感染例2例(2010年11月12日報告)、及び香港におけるH5N1ウイルス感染例(2010年11月17日報告)について、報告された。
30	インフルエンザ	ProMED-mail 20101112.4117 / CDC online News room (Nov.12, 2010)	2010年11月12日、米国においてブタ由来インフルエンザH3N2に感染した2症例(Wisconsin州及びPennsylvania州)について報告された(FluView報告)。両症例は生育ブタと近接していたことが確認されたが、2例の発症日は6週間以上離れており、ウイルス遺伝子はいくつか異なり、2人は関連性がない。両州では、当該ウイルスの地域感染は認められていない。ブタインフルエンザにヒトが感染した稀な例である。2005年以降、米国CDCに報告されたブタ由来インフルエンザウイルスによるヒト感染症 計18人(今回の2症例を含む)。このうち、ブタ由来 A型 (H3N2)ウイルスは過去 3症例、今回 2症例(計 5症例)である。
31	インフルエンザ	ProMED-mail 20101223.4519	CDC/MMWR 2010; 59(50)1651-1655についてProMEDで報告された。2010年10月3日から12月11日までの米国におけるインフルエンザ活動性の報告である。新規のインフルエンザAウイルスとしては3症例(Wisconsin, Pennsylvania, Minnesotaから1例ずつ)が報告され、どれもブタ由来インフルエンザA(H3N2)感染であった。3症例に関連は無く、ウイルス株は類似しているが同一ではなかった。ヒト・ヒト伝播は先の2症例では認められず、3例目は調査中である。
32	インフルエンザ	WHO/GAR Pandemic (H1N1) 2009 - update 121 2010/11/22 ProMED-mail 20101124.4243 IDWR Week 47 2010; 12(47) p.14	2010年11月19日現在、世界的にインフルエンザの活動性は、熱帯アジアや温帯南米の限られた地域を除いて、低いままである。南半球の温帯地域の冬期のインフルエンザ流行期は2010年10月初めに終了され、それ以来、わずかな伝播状況である。直近の今シーズンのインフルエンザの活動はアルゼンチンの北西部に位置するいくつかの州において報告されている。北半球の温帯地域の晩秋から冬期では、インフルエンザの活動性は、ヨーロッパ、北米、温帯アジアのほとんどの国で、ベースラインかあるいは、それ以下に保たれている。季節性インフルエンザB型とA型(H3N2)ウイルスが、世界的な循環を続けており、後者がわずかに優勢である。インフルエンザH1N1(2009)ウイルスの循環は、アジア全域及び他の地域では散発的に、低から中程度レベルの活動性として検出されている。10月24日から11月6日までに、計1442検体がインフルエンザウイルス陽性であり、1123検体がインフルエンザA型(23.8%がH1N1(2009)、75.5%がH3N2)、313検体がインフルエンザB型であった。その他のインフルエンザウイルスのヒトへの感染に関する情報として、米国における3系統の遺伝子再集合を起こしたブタ由来H3N2ウイルス感染例2例(2010年11月12日報告)、及び香港におけるH5N1ウイルス感染例(2010年11月17日報告)について、報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
33	インフルエンザ	WHO/GAR Pandemic (H1N1) 2009 - update 123 2010/12/17 ProMED-mail 20101221.4495 IDWR Week 50 2010; 12(50) p.12	2010年12月17日現在、前回の更新からインフルエンザの活動性はヨーロッパ各国(主に英国)で観測されており、冬期のインフルエンザ流行期の到来と考えられている。また、東アジアや北米などの北半球の温暖地域でもインフルエンザの活動性が高まりつつあり、同様に流行期の到来と考えられる。世界的には、インフルエンザ(H3N2)、インフルエンザ2009(H1N1)、及びインフルエンザBウイルスが循環しており、優勢なウイルスは地域によって異なる。ウイルス学的調査の結果からの報告として、米国から、12月7日時点でMinnesota州で3系統の遺伝子再集合を起こしたブタ由来インフルエンザA(H3N2)ウイルス感染1例が新たに報告された。塩基配列解析から11月にPennsylvania、Minnesota州で認められたウイルスとは異なっていた。2005年以来、3系統の遺伝子再集合を起こしたブタ由来H3N2ウイルス感染例は計6例となった。英国から、数多くの重篤あるいは致死のインフルエンザ2009とインフルエンザBウイルスが最近認められていることが報告された。
34	インフルエンザ	www.cdc.gov/flu/swineflu/soiv.cases.htm	2005年以降の米国におけるブタ由来インフルエンザウイルス(SOIV)へのヒト感染について報告された。2010年12月17日時点で、米国では2005年以降のSOIVのヒト感染例が19例報告されている。うち12例は3種再集合体(tr)H1N1ウイルス、6例はtrH3N2ウイルス、1例はtrH1N2ウイルスであった。全症例が症状を発症後、回復した。12例が19歳より若年であり、7例が成人であった。15例においてブタとの接触が特定された。これらの症例の調査の結果、ヒト-ヒト間の伝播は確認されていないが、生育ブタに接触がなく、感染した症例とのみ接触していたという症例がある。
35	インフルエンザ	www.cdc.gov/media/subtopic/heard.htm 2010.12.17	2010年12月7日のFluViewにおいて、米国のブタ由来インフルエンザH3N2に感染した1症例(Minnesota州)について報告された。患者検体からブタ由来H3N2ウイルス陽性が確認された。ブタ由来H3N2ウイルスは2009年4月から米国において循環してきた2009H1N1ウイルスとは異なる。またインフルエンザウイルスシーズンにヒトの間で典型的に循環しているヒト季節型インフルエンザA(H3N2)ウイルスとも異なる。ブタ由来H3N2ウイルスは北アメリカのブタの間で通常循環するが稀にヒト感染が認められる。2010年11月12日のFluViewにおいて、米国でブタ由来H3N2ウイルス感染のヒト症例2例(Wisconsin州及びPennsylvania州)が報告された。両症例検体からブタ由来H3N2ウイルス陽性が確認された。ブタから分離された4つの主要なインフルエンザAウイルスにはH1N1、H1N2、H3N2、H3N1がある。ブタで循環しているウイルスはヒト、ブタ、トリ由来のインフルエンザウイルス遺伝子を有することから3種再集合と呼ばれる。
36	鳥インフルエンザ	OIE 2010 December 2	2010年11月29日、鳥根県安来市の農場主より連絡を受けた獣医が調査したところ死亡した5羽中3羽の鳥から高病原性インフルエンザであるH5型の亜型が検出された。死亡は57羽、焼却処分は21549羽となり、農場は消毒され、現場から10km以内を規制区域となった。
37	鳥インフルエンザ	PLoS Pathogens 6(8); e1001034; 2010	インフルエンザウイルスの宿主適応の生物学的構造解析について報告された。ポリマーゼPB2タンパク質上の2つのアミノ酸(PB2-627K又はPB2-701N)は鳥インフルエンザウイルスがヒトに適應するのに重要と考えられている。PB2の591位の塩基性アミノ酸は627位のリジンの欠損を補い、哺乳類におけるパンデミックH1N1ウイルスの効率的な複製に寄与した。またPB2の591位の塩基性アミノ酸は鳥H5N1ウイルス感染マウスの致死率を増加させた。
38	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20101130-4303	2009年以来、日本国内最初の鳥インフルエンザが鳥根県で発生したことを受けて、政府は2万羽の家禽の処分を行う。政府は安来農場から半径10kmの農場に対しニワトリの移動をしないよう要請した。
39	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20101202-4330	発生日2010/11/27、発生確認日2010/11/29、OIEへの報告日2010/12/2鳥根県安来市の農場主より連絡を受けた獣医が調査したところ死亡した5羽中3羽の鳥から高病原性インフルエンザであるH5型の亜型が検出された。死亡は57羽、焼却処分は21549羽となり、農場は消毒され、現場から10km以内を規制区域となった。
40	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20101206-4366	日本政府はニワトリ農家での先のインフルエンザが高病原性インフルエンザであるH5型の亜型であることを確認した。日本は国内の鳥インフルエンザ発生について国際獣疫事務局に通知を出した。報告では鳥根県安来市のアウトブレイクを伝えている。
41	鳥インフルエンザ	宮崎県農政水産部 畜産課プレスリリース 2011年1月21日	2011年1月21日、宮崎県宮崎市佐土原町にある種鶏10240羽を飼養する農場において36羽の鶏が死亡、高病原性鳥インフルエンザの発生が疑われ宮崎家畜保健衛生所に連絡があり、簡易検査によって6/7羽が陽性であった。緊急措置として当該農場の飼養鶏の隔離、周辺農場に対する移動自粛の要請、当該農場周辺の飼養農場の状況についての早急な把握が実施された。22日、宮崎家畜保健衛生所での遺伝子検査によってH5亜型と判明。当該農場における飼養家禽の殺処分、発生場所の消毒、家畜伝染病予防法に基づく指導制限、周辺地域への消毒ポイントの設置など必要な防疫措置が開始されることになった。23日、宮崎県児湯郡新富町にある産卵鶏66000羽を飼養する農場において2例目の高病原性鳥インフルエンザ疑い例(当日朝20羽が死亡)が発生。簡易検査で5/6羽が陽性であった。遺伝子検査の結果5/6羽がH5亜型との結果が出たため、必要な防疫措置がとられることとなった。24日、農研機構動物衛生研究所で行われたウイルスの接種試験及び遺伝子解析によって、当該ウイルスが強毒タイプであること、昨年11月鳥根県の家禽から分離されたウイルスや12月に鹿児島県で野鳥から分離されたウイルスなどと極めて近縁であることが分かった。
42	鳥インフルエンザ	農林水産省プレス リリース2010年11 月29日	鳥根県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患者の確認及び「高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部」の設置、今後の対処方針を決定したことが報告された。鳥根県安来市において、死亡鶏の通報を受けて、農場の立ち入り検査を実施したところ、インフルエンザ簡易検査で3/5羽が陽性であった。さらに遺伝子検査により、H5亜型であることが確認された。他、約30羽の死亡が認められたことから、現時点で疑似患者とした。農林水産省に対策本部を設置、開催し、①当該農場の飼養家さんの殺処分等の必要名防疫措置を実施、②移動制限区域内の農場の発生状況確認検査の実施、③発生農場周辺の消毒の強化、等を実施した。
43	鳥インフルエンザ	農林水産省プレス リリース2010年12 月3日	鳥根県で発生した高病原性鳥インフルエンザのウイルスについて、農研機構動物衛生研究所により性状を検査した結果、H5N1亜型(強毒タイプ)であることが確認された。引き続きウイルスの遺伝子解析等を行う予定である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
44	ウエストナイルウイルス	J Infect Dis. 2010 Nov 1;202(9):1354-61.	供血者スクリーニングによりウイルス血症と特定された者におけるウエストナイル熱の特徴について報告された。2003年6月から2008年にかけて米国赤十字は、初回検査でウエストナイルウイルス(WNV) RNA陽性となった供血者1,436名について、さらに経過観察と追加検査を行ったところ、821名の供血者がWNV感染症であると確認され、残りは未確定または偽陽性であった。WNV感染症の症状を576名の初期WNV感染者と、未感染者の間で比較したところ、WNV感染者の26%に、8症状(新しい発疹、全身の虚脱感、頭痛、重篤な筋肉痛、関節痛、発熱、悪寒、眼痛)のうち少なくとも3症状が存在すると推定された。症状を有する患者の半数近くが治療を求めたが、医療機関の認識不足のためWNV感染の診断を受けた者はわずか5%であった。また、女性および高いウイルス量の者は他の被験者より症状が発現する可能性が高かった。
45	チクングニヤウイルス感染	http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/hotnews/int/201010/516836.html	日本の蚊で伝播する新種ウイルス感染症 チクングニヤ熱が4類感染症に指定された。2010年10月1日、厚生科学審議会感染症分科会感染症部会において、アジア・アフリカ諸国での流行が問題となっているチクングニヤ熱を感染症法における4類感染症に追加することが合意された。4類感染症に指定されることで、患者を診断した医師には速やかな届け出が義務づけられる。さらに今回の部会では、チクングニヤ熱を検疫の対象となる感染症(検疫感染症)に追加することも合意された。チクングニヤ熱は日本国内に広く生息するヒトスジシマカの媒介で伝播する。急性期の患者における血中のウイルス量は多く、当該患者を刺した蚊を介してさらに感染者が広まる危険性がある。そのため感染症部会は、日本に持ち込まれたチクングニヤ熱が、国内で広まる可能性は十分高いと危惧している。
46	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail 20101004.3596	2010年10月3日、中国健康保護センター(CHP)はGuangdong省からのチクングニヤウイルス感染に関する報告を受けた。チクングニヤウイルスは感染したシマカ属の蚊からヒトに伝染し、発熱、頭痛、肘・膝・首などの関節痛などの症状を特徴とする。感染者の中には体幹や四肢に発疹を発症する者もいる。症状は通常3-10日以内に無治療で回復するが、関節痛は数週間から数ヶ月続く場合がある。当該ウイルスに対するワクチンはなく、蚊に噛まれないようにする必要がある。
47	デング熱	Am J Trop Med Hyg. 2010 Sep;83(3):664-71.	中国におけるデング熱の報告。中国では大規模アウトブレイクが1978年に既に報告されており、1978年から2008年までに計655,324症例(うち610例が死亡)が報告された。1990年代以降、デング熱の流行は、南部沿岸地域から北部や西部にまで拡大している。中国本土において、この20年間でデング熱ウイルスの主要な伝播媒介動物であるヤブカ属の生物学的行動および媒介能が大きく変化してきており、これはおそらく都市化の加速や地球温暖化によるものである。また、人口増加や頻繁な海外旅行もデング熱流行の増加要因となる。デング熱制御への方法は、媒介蚊のコントロール、流行を予測する迅速ウイルス発見システムの確立、地域に密着した教育、そして安全かつ有効なワクチンを開発することである。
48	デング熱	Eurosurveillance, vol 15, Iss. 40, 07 Oct. 2010	2010年8月、南東ヨーロッパのクロアチアから帰国したドイツ人(72歳、男性)がデングウイルス感染を診断された。患者は家族7人とともに車でドイツからオーストリア、スロベニアを経緯し、一晩中止まらずクロアチアに到着した。現地は気温が高く、夜間でも30℃以上であった。帰国翌日、患者は39℃を超える発熱、寒気、頭痛と眼窩後部痛等のデングウイルス感染に特徴的な症状を発症した。その後、短期間の改善がみられたが、発症5日後に再度39℃の発熱があり、関節痛、筋肉痛、衰弱、呼吸困難が続いた。ウイルス学的調査により、患者の血中でデングウイルス特異的IgMの存在とデングウイルス特異的IgGの上昇、デングウイルスNS1抗原の存在が明らかとなった。本症例はヨーロッパ土着(autochtone)のデング熱としてはフランスに続いて2例目と考えられる。クロアチアにおけるデングウイルス媒介の可能性としてヒトスジシマカが存在すること、デング熱を風土病としてもつ国からクロアチアへの伝播が、ドイツでの土着(autochtone)デングウイルス感染を許すこととなった。
49	デング熱	French Ministry of Health and Sport/Press release/Sep.13,2010	フランス本国において初の単発的なデング熱土着(autochtone)症例が報告された。患者は回復し、健康な状態である。ウイルスのあらゆる伝播を防止するため、今後は疫学的及び昆虫学的(すなわち蚊の個体群に関する)サーベイランスを強化する予定である。また患者の居住地周辺では蚊の駆除活動が実施された。
50	デング熱	Healthlines India Nov.23,2010	インドにおける2010年デング熱の最新情報。Delhiでは新たに14例が追加され、計6190症例(死亡8例)が報告されている。Shahdara(North)領域が最も感染例が認められており、861症例、次にRohini領域で782症例、Karol Bagh領域で690症例。
51	デング熱	Insidecostarica.com Nov.24,2010	コスタリカにおける2010年デング熱の最新情報。最も影響を受けている地域はLimon地区である。今年度半ばで、21000例が影響を受けており、2009年度の登録症例数の4倍以上の症例数である。
52	デング熱	NationNews.com Nov.10,2010	バルバドスにおける2010年デング熱の最新情報。321症例が確認され、内3例が死亡。2009年は91症例が報告されている。2009年7月までが242症例に対し、2010年7月までで872症例が報告された。
53	デング熱	ProMED 20100927.3506	アジア地域、オーストラリア、ヨーロッパ、南アメリカのデング熱更新情報について: フィリピンIloilo市では、2010年1月1日~9月18日までに4,825例(死亡27例)。台湾Kaohsiung市では、2010年これまでに227例。ベトナムでは、2010年これまでに55,400例。タイでは、2010年1月~9月11日までに75,852例(死亡87例)。インドネシアJakarta地域では、2010年1月~9月までに1,565例。マレーシアでは2010年これまでに死亡107例(前年死亡70例)。香港では、2010年これまでに43例。ネパールChitwanで7,000例以上の症例(少なくとも死亡19例/月)。インドDelhiでは、95症例以上。蚊媒介性疾患は計2,916例。インドBiharでは陽性518例(死亡6例)。パキスタンKarachiでは、2010年これまでに356例(216例が陽性)。オーストラリア(クイーンズランド州北部)では、4例が陽性、別8例が判定待ち。モナコでは、カリブから戻った18歳居住者に感染が認められた。フランスCorsicaでは、アジア旅行者の3例に症状が発現。フランス(アルプ・マリタイム)では2例。プエルトリコでは、2010年これまでに死亡23例。ホンジュラスでは、2010年これまでに死亡68例。ブラジルRoraimaでは、デング熱4型が12例に増加。ブラジルSao Pauloでは、4,100例(死亡17例)。パラグアイでは、2010年これまでの疑い症例数21,443例、確定症例数が13,678例。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
54	デング熱	ProMED-mail 20100921.3399	2010年の各国のデング熱についての最新情報。①9月15日、フィリピン、死亡534例(2009年の約40%増加)。②9月14日、ベトナムHo Chi Minh、週200人以上が感染。③9月15日、台湾、2010年末までに1000人以上の症例。④9月17日、中国Guangdong省、前週の11症例以降、アウトブレイクの可能性が警告されている。⑤9月15日、インドDelhi、昨日76例の陽性例が認められ、デング熱の脅威は継続している。⑥9月15日、インドAssam、少なくとも10症例が報告されている。⑦9月15日、インドBihar、昨日までにBiharのMunger、Begusarai、Panta地区で169症例のうち2例が死亡。⑧9月17日、パキスタン、洪水による国内避難難民が帰省を開始しており、彼らがSindh州にデング熱ウイルスを運んでいるかもしれない。⑨9月18日、フランスAlpes Maritimes、2例目を確認。⑩9月18日、米国Virgin Islands、死亡例1例及び感染疑い例19例のうち9例感染を確認。⑪9月17日、ブラジルSan Paulo、Rio Pretoでは24037症例(うち12例死亡)が登録。⑫9月15日、ブラジルEspírito Santo、32913症例(重篤例1495例、確認された死亡例14例、調査中4例)。⑬9月15日、ブラジルMinas Gerais、50000以上の症例が登録。⑭9月16日、ブラジルParana、59195例(うち感染確認例は26987例、地元感染26141例、他国での感染846例)が報告。⑮9月15日、ブラジルGoias、1月-9月、97600症例が報告。⑯9月16日、ブラジルMato Grosso、1月-現在、41450症例(うち重篤925例)が報告。
55	デング熱	ProMED-mail 20100927.3506	2010年デング熱最新情報。(1)9月22日、フィリピンIloilo、1月1日-9月18日、4825症例(死亡27例)(2)9月26日、台湾Kaohsiung City、227症例の報告(3)9月21日、ベトナム、全国で55400症例(死亡42例)。(4)9月18日、タイ、1月-9月11日、75852症例(死亡87例)(5)9月26日、インドネシアJakarta、1月-9月1565症例、9月1日-20日260症例(6)9月22日、マレーシア、死亡107例(7)9月23日、中国Hong Kong、61症例(2009年43症例)(8)9月20日、ネパール、7000症例以上、少なくとも19例/月が死亡(9)9月26日、インドDelhi、新たに95症例以上が報告され、計2916例(10)9月22日、インドBihar、死亡6例、518例陽性が確認された。(11)9月23日、パキスタンKarachi、この24時間で新たに13例が報告された。(12)9月24日、オーストラリアNorth Queensland、4例の陽性が確認され、8例が検査結果待ち(13)9月24日、モナコカリブ海から戻った18歳に感染が認められた。(14)9月21日、フランスCorsica、アジア渡航歴のある3例に症状が認められた。(15)9月22日、フランスAlpes-Maritimes、新たに2例が確認された。(16)9月25日、プエルトリコ、新たな死亡1例を含め計23例の死亡例(17)9月26日、メキシコOaxaca、1668症例(18)9月19日、ホンジュラス、少なくとも出血熱で死亡68例、古典的デング熱60258例、出血熱2276例(19)9月24日、ブラジルPoraima、デング熱4型症例は12例に増加(20)9月22日、ブラジルSan Paulo、確認症例4100例、死亡17例、(21)9月25日、パラグアイ、13678症例が確認されている。
56	デング熱	ProMED-mail 20101129.4300	2010年の各国のデング熱についての最新情報。11月25日、フィリピンNegros Oriental、50%まで症例数は低下。第42-56週に108症例であり第33週がピークの665症例。11月23日、台湾、前週106症例。11月22日、タイPhuket、2010年では693例。11月23日、インドネシアWest Nusa Tenggara、1月-10月で計1781症例(2009年同期間は625症例)。11月23日、インドDehli、新たに14例が追加され、計6190症例(死亡8症例)。11月22日、インドAndhra Pradesh、この24時間で3症例が死亡。11月23日、パキスタンPunjab、この24時間で、Lahoreから46症例、他地区から35症例が報告された。11月23日、パキスタンSindh、ここ24時間で、88症例が入院。11月24日、コスタリカ、2010年半ばで21000症例(2009年同期間の4倍)。11月24日、プエルトリコ、死亡30症例、10月22日-28日で567症例。11月26日、ブラジルGoiania、1月1日-11月20日までで2009年の同期間に比して症例は190%増加。11月24日ブラジルSao Paulo、11月10日時点で5676症例。11月26日ベネズエラ、112258症例(出血熱9621症例)。
57	デング熱	The Manila Bulletin Newspaper Online Oct.14,2010	フィリピンにおける2010年デング熱の最新情報。1月1日-10月8日、計2369例のうち8例がCaragaにおいて死亡した。2009年(853例登録)の症例数に比して174%増加している。
58	デング熱	VOV News 07/08/2010	ベトナム、Binh Dinh省において、676例がデング熱と診断され(前年の2倍)、小児2例が死亡した。近隣のPhu Yenにおいてデング熱930症例が登録され、Tuy Hoa市に死亡1例が確認された。デングウイルスはGia Lai省のPleiku市及び他の地域にも蔓延している。7月7日のコレラ症例数が確認された。Thanh Hoaで1例、HCM市で3例、Bac Lieuで2例、Hanoiで5例であった。症例のほとんどが、イヌ肉、生野菜、アイスやフルーツを摂取していた。
59	パルボウイルス	Transfusion. 2010 Aug;50(8):1712-21	関連供血者と受血者のサンプル分析により確認された、赤血球輸血によるパルボウイルスB19 (B19) 感染について報告された。受血者のB19 DNAについてはPCR法、B19 IgG抗体についてはEIA法を用いて検査を行った。輸血に関連しない感染を除外するため、B19 DNA陽性受血者の輸血前サンプル及び関連供血者サンプルのB19 DNA、IgG、IgM抗体を検査した。感染の確認のためにDNA配列解析と系統発生解析を行った。その結果、受血者869人中14人(1.6%)がB19 DNA陽性であったが、受血者869人中1人(0.12%)が輸血による感染と確定された。この受血者は、急性感染した供血者からの赤血球(1単位中 5×10^{10} IU のB19 DNAを含む)及び他の供血者3名からの赤血球(1,320 IUのB19 IgG抗体を含む)を輸血されていた。感染率(0.12%)は低いが、米国において毎年数百~数千例の感染症が発症する可能性がある。ほとんどの場合無症候性であるが、新生児や免疫不全状態、溶血状態にある者の場合、重篤になることがある。
60	ウイルス感染	Science. 2010 Oct 1;330(6000):20-21.	中国中央部における新型致死性ウイルスの同定について報告された。中国中央部でこの3年間、夏になると数百人が高熱と胃腸障害をきたし、多くの患者が多量出血し、ある地域では患者の30%近くが死亡した。ヒト顆粒球アナプラズマ症が疑われたが、テキサス大学医学部のダニ媒介性疾患の専門家が新型のプニヤウイルスを同定した。その後の研究によりこのウイルスは重症発熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスと命名され、プニヤウイルス科フレボウイルス属に分類された。しかしこのウイルスの感染による致死率や、媒介生物はまだ分かっていない。
61	ウイルス感染	Am J Trop Med Hyg. 2010 Sep;83(3):714-21.	ボリビアとペルーにおけるヒトへのGuaroaウイルス(GROV)感染について報告された。GROVはコロンビアで1959年に初めてヒトから分離された。その後、ブラジル、コロンビア、パナマの発熱患者および蚊からウイルス分離株が採取されたが、ヒトの疾患とウイルスの関連性は不明であった。ボリビアとペルーの発熱疾患患者からGROV14株が分離され、また3症例でIgMセロコンバージョンが確認された。ペルーのIquitos居住者の抗GROV抗体陽性率は13%であり、林業、漁業、油田労働等の就業者において陽性率が高かった。代表的なGROV分離株の遺伝子学的特性からは、ボリビアとペルーの株の特性である単一系統グループを形成しており、以前にブラジルとコロンビアで分離された株とは異なる可能性が示された。本試験で、GROVが中南米の熱帯地域における発熱疾患の原因の一つであることが確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
62	ウイルス感染	Arch Virol 155,1313- 1317,2010	中国における離乳ブタの呼吸器症状を示す新規のブタbocavirus (PBoV)による高い感染率について報告された。PCR法により、PBoVは顕著に離乳ブタに感染しており(69.7%、69/99)、呼吸器症状を伴っていた。塩基配列解析により、パーシャルVP1/2遺伝子が高頻度に保存されており(99-100%)、5塩基の変異が認められた。PBoVは呼吸器疾患のブタに感染しているウイルスである可能性が示唆された。
63	ウイルス感染	Bloomberg News (2010 Oct. 22)	国立カリフォルニア霊長類研究センター(米国)のTiti monkeyの55匹のうち23匹(約40%)が重篤な上気道炎を発現し、肺炎となったり、肝炎を発現した。そのうち19匹が死亡(感染サル約83%)した。広域スペクトルの抗生剤が有効性を示さなかったことから、肺炎は二次的なバクテリア感染ではなく、ウイルス感染によるものと考えられた。後に、原因ウイルスは、新規アデノウイルスであることが判明した。サルと密接に接触した科学者の1人が重篤な肺炎を発症したが、処置せず、約4週間後に回復した。流行の3ヵ月後、当該症例の血液からこのウイルスに対する抗体が検出された。ヒトからヒトへの感染は認められておらず、今後の監視を要する。
64	ウイルス感染	IDSA Meeting, Abstract, 1 96 Oral Abstract Session: Virology, 10 9-110, 2010	国立カリフォルニア霊長類研究センター(米国)のTiti monkeyの群れで発生したアウトブレイクの原因ウイルスを、Virochip(DNAマイクロアレイ)によって調査した。感染したサルは、上気道炎を発症後、急速に重篤な肺炎や肝炎を発現した。センターにいた60頭中の23頭のサルが重症化し、19頭が死亡(83%)した。感染したサルの組織の微生物学的試験の結果は陰性であった。感染したサルの組織やスワブ標本を用いたVirochipの結果、アデノウイルスの痕跡が見つかった。完全に近い35Kゲノムシーケンス解析により、最も近いアデノウイルスグループの塩基配列と比べても80-85%の相同性しか示さない新たなアデノウイルスであることが判明した。サルでのアウトブレイク発生初期に、感染したサルと密接に接触していたセンターの研究員の1人が重症肺炎となり、6ヵ月後の回復期の血清がアデノウイルス抗体陽性であったことから、異種間の感染が強く疑われた。アデノウイルスが種を超えて感染した初めて事例であると考えられる。
65	ウイルス感染	ProMED-mail 20101023.3850	米国において、初めてアデノウイルスによるサルからヒトへの感染が確認された。①米国California National Primate Research Centerで飼育されていたサル(Titi monkey)55頭中23頭(約40%)が上気道症状から肺炎や肝炎に進行して重篤となり、感染サル19頭(約83%)が死亡した。広域抗生物質がサルに効かなかったことから、肺炎は細菌感染症の二次的な感染ではなく、ウイルスにより起こったと示唆された。後にアデノウイルスであることが判明し、遺伝子の塩基配列の解析から新規のアデノウイルスであると考えられた。サルと接した研究員がサルと同時期に肺炎を発症し重篤となったのも4週間後に回復し、流行から3ヵ月後に血液検査でウイルス抗体陽性を示した。他の研究員についてもスクリーニングを行ったが、本症例と同じウイルス抗体は認められなかった。②サル(Titi monkey)に対しVirochip(既知及び新規ウイルスの検出のために設計されたDNAマイクロアレイ)で同定し、塩基配列を調べた結果、感染サルでは、最も近い類縁体と全塩基配列の80-85%の相同性しか示さなかったことから、新規のグループに属することが判明した。ウイルス中和反応による血清学的分析ではアウトブレイクで生き残った感染サルで強い抗体反応が認められた。サルと接触した研究員はアウトブレイクで重篤な肺炎を発症し、6ヵ月後に採取された回復後の血清はアデノウイルスに対して陽性であり、異種間伝播が示唆された。
66	ウイルス感染	CDC Emerging Infectious Diseases, 16, 12, 2010 Emerging Infectious Diseases 16(12) 1979-1982	2010年、エジプト渡航者におけるAlkhurma出血熱について報告された。Alkhurma virus(ALKV)はFlavivirus属のダニ媒介性出血熱の一種として最近報告された。1990年代後半に分離され、現在89%の塩基配列相同性を共有し、Kysanur Forest病ウイルスの亜型と考えられている。この病原体は、発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、嘔吐、血小板減少症などの症状を発現させ、重症の場合は、出血症状、脳炎を示し、死に至る(25%の致死率が報告されている)。ラクダ、ヒツジが宿主と考えられている。最近、サウジアラビアのJeddah近くで収集されたOrnithodoros savignyiというダニにおいてALKV RNAが検出された。アラビア半島では、これらのダニの生育場所とラクダとは関連があり、ヒトALKV感染例が報告された場所でこれらのダニが認められている。蚊が宿主であるとする仮説について、2つの研究報告がある。ALKVは経皮から、あるいは低温殺菌していない汚染した牛乳を通して経口からヒトに感染していると考えられている。ALKVはサウジアラビアでのみ検出されているが、インドや中国に広まっているKysanur Forest病ウイルスと密接な関係がある。2010年エジプトからイタリアに戻った2人の旅行者においてAlkhurma出血熱が認められた。
67	ウイルス感染	HPA/Emerging Infectious Monthly Summaries July 2010 (参考: 2010 ICEID Abstracts #462)	2010年International Conference on Emerging Infectious Diseasesで発表されたEbola Restonウイルスに関する調査結果がHPA月例定期報告で報告された。2009年、フィリピンの養豚場で認められたReston Ebolaウイルス(REBOV)に関して、以前、ウイルス陽性が認められた養豚場の1つから5km範囲内の養豚業者を対象に血清学的研究が実施された。計316例の養豚業者のうち54例(17%)がREBOV IgG抗体検査陽性であった。27例(50%)は過去6ヵ月に病気のブタに接触しており、同じ割合の症例が、どの防御装備(personal protective equipment)も使用していなかった。今回の抗体陽性率は霊長類の4施設から1989年に初めてREBOVが報告された割合(6%)よりも高い。豚からヒトへのREBOV伝播は可能性として豚の排泄物への曝露が考えられる。
68	ウイルス感染	ProMED-mail 20101005.3613	中国における致死性疾患、新型 phlebovirus 関連について、Science, 330, 6000, 20-21を情報源として報告された。過去3年間、毎年夏に、中国中央部で数百人が高熱と消化器症状を特徴とする疾患に罹患していた。一部の地域では、最大30%の患者が大量出血のため死亡した。ヒト顆粒球アノプラズマ症(HGA)が疑われていたが、2009年12月に、異なる研究グループから新型のブニヤウイルスが発見されたとする論文が報告された。Phlebovirusに属する、新型のブニヤウイルスが、夏季に中国中央部の複数の省に蔓延し、HGAによるものとは別の、致死性疾患に関与していることが判った。ダニではないとされる、このウイルスのベクターは特定されていない。また、高熱と血小板減少の症候群とウイルスとの関連も、はっきりと確認されたわけではない。
69	ウイルス感染	Virology Journal 2010; 7:272	PARV4(parvovirus 4)は既知のヒトパルボウイルスと関連のないパルボウイルス属科の新種である。ウイルス血症はPARV4感染症の特徴を示し、ウイルスDNAの残存が数種の組織で示されている。現在まで、PARV4はいかなる疾患にも関連せず、ヒトでの感染率も明確ではなかった。本研究では、PARV4の組織分布と持続感染能力をパルボウイルスB19(B19V)と比較し、評価した。急性ウイルス感染の疑いのない様々なヒト組織を対象に、ORF2とORF1をターゲットとしたリアルタイムPCRとnested PCRにより、PARV4とB19VのDNAを検出した。少量のPARV4 DNAが成人の心臓と肝臓において高頻度(40%以上)に検出され、肺と腎臓(23.4%、18%)、骨髄と皮膚と滑膜検体中(5.5%、4%、5%)でも検出された。肝臓と心臓へのPARV4の特異的な親和性はウイルス複製の標的の可能性や、肝疾患や心疾患におけるPARV4感染の役割の可能性についての研究に焦点を当てる事を示唆している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
70	ウイルス感染	Virus Genes. 2010;41:305-308.	パルボウイルス亜科とデンスウイルス亜科の2つの亜科に分類されるパルボウイルス科は脊椎動物と昆虫に感染し、昆虫、動物及びヒトにおいて広範囲にわたる疾病に関連する。いくつかの新しいパルボウイルスが中国南東部で集められたブタ血清で特定された。塩基配列分析は中国南東部で検出されたパルボウイルスがパルボウイルス亜科で異なる亜系であることを示した。これらの結果に基づき、これらのパルボウイルスを記述するために新しいパルボウイルス亜系「Cuvirus」を提案する。
71	ウイルス感染	Virus Genes. 2010;41:369-376.	Newcastle disease virus(NDV)はトリに感染することで知られており、1999-2006年の間に少なくとも8株のNDVが中国のブタから分離されている。そのうち4株は遺伝子解析から典型的な低病原性のウイルスであることが示された。また、系統的解析からは、中国のLa Sotaワクチン株に類似していることが示された。ブタはNDVに感染しないとされていたが、ブタと鶏の接触により種を超えて感染したものと推測された。
72	ウイルス感染	毎日新聞 2010年11月12日	2001年以降に認められたニホンザルの高い死亡率について、調査目的で設置された京都大学霊長類研究所の第3者委員会は、同じ施設にいたカニクイザルから感染したウイルスが原因を考えると発表した。ウイルスは「サルレトロウイルス4型(SRV-4)」として知られ、カニクイザルに自然感染していること、現在ニホンザル39頭が隔離されており、そのうち8例の感染が確認されている。鼻の粘膜から出血する病気で、血小板が急激に減少する特徴があり、遺伝子解析により血中からSRV-4が検出された。ヒトに感染する恐れはほとんどなく、発症例もない。
73	ウイルス感染(CCHF)	ProMed-mail20100718.2406	① 2010年7月14日、ロシア、Stavropolにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)について報告された。CCHF流行シーズンが続いており、2010年、集積は25症例である。1症例目は男性で、牛から素手でダニを取り除き押しつぶした。ダニに噛まれたという報告は8000件。統計調査の結果から、ダニの5%だけがCCHFを保有するが、これは2009年の保有率よりも有意に高い。 ② 2010年7月9日、ロシアAstrakhanにおけるCCHFについて報告された。2010年のCCHF症例は6例(死亡1例)である。Privoljskoe地域で3例、Astrakhan、Narimanovskoe、及びChernoyarskoeで各1例が記録されている。 ③ 2010年7月13日、ロシアVolgogradにおけるCCHFについて報告された。2010年、725人が医療保護を申請したが、うち3例はCCHFに感染した。2009年は、770人がダニに噛まれたが感染者はいなかった。 ④ 2010年7月8日、ロシアRostovにおけるCCHFについて報告された。2010年CCHFは11例登録された。62人がCCHF感染の疑いで入院したが、11人だけが確認された。
74	ウイルス感染(CCHF)	ProMed-mail20101009.3670	2010年10月9日、Pakistanにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)が報告された。Pakistanでは1年を通じてCCHFが発生し、6月と10月にピークを迎える。2010年9月15日以降、流行地Baluchistan以外でCCHF3例が確認され、2例が死亡した。1例は38歳(男性)の医師で9月23日死亡。ウイルス感染源は不明。2例目は30歳男性で9月28日に死亡。ウイルス感染源は不明。3例目は35歳女性で9月8日に発熱が出現。自宅のバッファロー、ウシの飼育によりウイルスに曝露したと推測された。
75	ウイルス感染(CCHF)	THE TIMES OF INDIA/2011-01-23/	インドにおいて初めて致死性のクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の陽性症例が報告された。原因ウイルスがAhmedabad各地で採取されたダニから高ウイルス量が検出されている。National Institute of Virologyの研究者らは、現在、インドの至る所でウイルスが循環しており、CCHF風土病である他国からインドに持ち込まれたのではないと考えている。
76	ウイルス感染(リフトバレー熱)	ProMed-mail20100624.2108	2010年6月24日、南アフリカ東ケープ州におけるリフトバレー熱が報告された。獣医(27歳)が24日間昏睡し、先週、ポートエリザベスのセントジョージ病院で死亡した。死亡例の父によると、症例は最大限の予防策をして、感染が疑われる家畜の剖検を行っていた。症例は風邪の症状はあるが、検査ではリフトバレー熱は陰性であった。2010年5月15日、昏睡となり、病院にて、脳死と診断された。東ケープ州では現在確認したリフトバレー熱症例は17例。南アフリカの症例は221例、全国で死亡症例23例。
77	ウイルス感染(リフトバレー熱)	ProMed-mail20101202.4332	2010年12月2日、Mauritaniaにおけるリフトバレー熱のアウトブレイクが発生し、死亡例17例が報告された。
78	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20110110.0119	2011年プリオン疾患最新情報が更新された。①英国:2011年1月10日現在、2010年では疑い例146例、孤発性CJD69例、vCJD3例、医原性CJD2例、家族性CJD5例、GSS1例であった。vCJD確定例または疑い例の死亡者総数は2010年までで170名である。②フランス:2011年1月4日現在、1992年以来、確定例及び疑い例は計25例である。2011年では、疑い例1610例、孤発性CJD98例、vCJD6例であった。③米国:2010年1月1日から10月31日までに疑い例333例、孤発性CJD158例、家族性CJD33例であった。④台湾:2010年12月8日、36歳男性がvCJD疑いで死亡したと報告された。症例は1989年から1997年まで英国に居住していた。
79	クロイツフェルト・ヤコブ病	Public Health Agency of Canada Statistics(2010-11-24)	2010年10月31日時点における、CJD監視システムによるCJDの疑い症例照会数(1997年~2010年、計1097例)、CJDの死亡症例数(1994年~2010年、計491例)、CJDの州/準州ごとのCJD症例数、CJDの死亡率が報告された。
80	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/Vaccines, Blood & Biologics/2010/10/26	米国内採取血漿から製造されたヒト血漿由来第Ⅷ因子(pdFVⅢ)の使用に伴うvCJD罹患リスクとの定量的リスク評価ドラフトの2010年最新版が報告された。pdFVⅢリスク評価モデルで得られた結果から、①米国で製造されたpdFVⅢからのvCJD感染リスクは非常に低いと考えられるが、0ではないこと、②血漿プールがvCJDに汚染されている可能性は低いこと、③vCJD原因物質への曝露の可能性があり、又非常に低いながらも潜在的な感染リスクがあること、④一般的なvCJDリスク、あるいは個々の患者への真のリスクを正確に評価することは不可能であること、⑤感染リスクに影響を及ぼす最も重要な因子が製造ステップでのvCJD原因物質のクリアランス、個々の患者がどの程度の量の製剤を用いるか、及び変数として用いた英国供血者集団におけるvCJDの発生率であることが示唆されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
81	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of Pathology 2010;10(1002):276 7-2767	英国で採取された扁桃検体におけるリンパ網内性プリオンタンパクの大規模な免疫組織化学検査 (IHC) について報告された。英国ではBSE流行の結果、2010年7月5日までにvCJD173例に至っている。扁桃検体63007検体について病因のプリオン蛋白 (PrP ^{Sc}) に対するEIAを行ったが陰性であった。最もリスクのある1961-1985年生まれの検体とコントロールを含めた別検体について、PrP ^{Sc} 、抗プリオン抗体ICMS35及びKG9を用いてIHCを行ったところ、扁桃検体9160中1検体が陽性であり、英国人口100万人あたりプリオン蛋白関連疾患109人の検出率であった。この結果はIHCによってvCJD陽性であるかを見当づけることが出来ると説明している。
82	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20100706.2248	英国: 2010年7月5日時点で新規vCJD症例1件、2010年は2例がvCJDによる死亡、vCJD症例の総計は173例。全体像として英国でのアウトブレイクは終息するという見解と一致する。 フランス: 2010年7月1日時点、新規vCJD症例なし。 米国: 2010年4月30日以来、更新なし。 vCJDの診断基準のバリデーションを実施した文献を報告。
83	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20100809.2720	英国: 2010年8月9日時点で新規vCJD症例なし。1994年1月から2009年12月までのvCJD診断と死亡率も記され、ピークは過ぎたものの、遺伝的に異なる集団に未来のピークが現れる可能性はある、とした。 フランス: 2010年7月1日時点、新規vCJD症例なし。 米国: 2010年4月30日以来、更新なし。 イタリア: vCJD2症例目を確認した。
84	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20100911.3285	①英国: 2010年9月6日時点、vCJD新規症例なし。確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例169例。確定及びほぼ確定のvCJD症例で生存は4例。2010年のこれまでの死亡例は2例(2009年死亡3例)。 ②フランス: 2010年9月1日時点、2010年初めの8ヵ月において、確定した孤発性CJD症例47例、家族性CJD症例1例。医原性CJD、vCJD症例は0例。1992年からこれまでの確定及びほぼ確定のvCJD症例25例(男性12例、女性13例、年齢中央値は37歳、現時点で全例死亡。7例はIle-de-France、18例はその他の州に居住。確認症例は全例メチオニン-メチオニンのホモ接合子)。 ③米国: 2010年8月31日時点。2010年1月1日~8月31日までにプリオン症例124例(うち孤発性CJD症例85例、家族性CJD症例20例、医原性CJDとvCJD症例0例)。1996年以来、プリオン症例は2177例(うち孤発性CJD症例1834例、家族性CJD症例315例、医原性CJD症例4例とvCJD症例3例)。 ④新しい孤発性プリオン病に関する報告。2010年8月13日、Annuals of Neurology誌において、可変プロテアーゼ感受性プリオン症の遺伝子型特徴がクロイツフェルト・ヤコブと共通である、と報告された。新規の孤発性プリオン病は「可変プロテアーゼ感受性プリオン症(VSPPr)」と名付けられ、CJDが1920年代に報告されてから、2番目の孤発性の型である。
85	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Journal of Environmental Quality 39,4,1145-1152,2010	ウシの牛海綿状脳症、シカやヘラジカの慢性消耗病(CWD)、ヒツジとヤギのスクレイピー、ヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病を含む伝達性海綿状脳症(TSE)は、進行性の神経変性病で、異常折りたたみフォームのプリオンタンパク質(PrP ^{TSE})がTSEの感染能に関連しており、感染物質の主な成分を構成している。CWDとスクレイピーの環境上の伝播経路として、土壌が考えられている。砂土あるいはシルトを比較的高い割合で含有する土壌及び低有機炭素成分含有の5種類の土壌を介したPrP ^{TSE} の運搬について検討した。その結果、分解された組織から土壌に放出されたTSE病原体は、低有機炭素成分を含有した初期堆積部位に留まり、感染した死体が地表表面に堆積された場合には、他の動物の感染源となる可能性が示唆される。
86	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20101006.3622	① 英国: 2010年10月4日時点、確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例は170例。確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例で生存症例は4例。ここ1ヵ月で3例目のvCJD死亡例あり。 ② フランス: 2010年10月1日時点、2010年初めの9ヵ月において、確定した孤発性CJD症例64例、家族性CJD症例2例。医原性CJD症例及びvCJD症例はなし。 ③ 米国: 2010年10月4日時点。2009年7月31日から最新情報なし。 ④ 日本: 2010年9月20日、日本における人プリオン疾患で10年間(1999年-2009年)の前向きサーベイランスについてBrain誌に報告された。プリオン病疑いの日本の患者1685人の情報を入手し、患者1222人がプリオン病だと判定した。うち確定例は180例、ほぼ確定例は1029例。プリオン病の年間発生率は欧州諸国に似ている。 ⑤ 英国: 2010年10月5日、Health Protection AgencyとUniversity College Londonの神経学研究所が、扁桃検体の高感度検査を実施し、vCJD関連のプリオン蛋白質を検出した結果、当初の見積りの英国vCJDプリオン感染率と一致していることがThe Journal of Pathology誌に報告された。
87	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20101105.4008	① 英国: 2010年11月1日時点、確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例は170例。確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例で生存症例は4例。 ② フランス: 2010年10月29日時点、2010年初めの10ヵ月において、確定した孤発性CJD症例75例、家族性CJD症例4例。医原性CJD症例及びvCJD症例はなし。 ③ 米国: 2010年11月5日時点。2009年7月31日から最新情報なし。 ④ Proceedings of the National Academy of Sciences誌にプリオン疾患感受性はプリオンタンパクのベータ構造折り畳みの傾向とローカル側鎖相互作用に影響されることが報告された。
88	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mail20101206.4364	① 英国: 2010年12月6日時点、確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例は170例。確定及びほぼ確定のvCJD死亡症例で生存症例は4例。 ② フランス: 2010年12月1日時点、2010年初めの11ヵ月において、確定した孤発性CJD症例87例、家族性CJD症例6例。医原性CJD症例及びvCJD症例はなし。 ③ 米国: 2010年11月1日時点。2009年7月31日から最新情報なし。 ④ Psychiatry and Clinical Neurosciences誌において、台湾での1例目となるvCJDが報告された。本例は英国滞経験のある患者であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
89	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20101230.4591	中国(香港)における豚レンサ球菌感染例1例が報告された。症例はSha Tinに居住する56歳の男性で、2010年12月23日に発熱、悪寒、意識混濁が出現し、12月25日に入院した。症例は髄膜炎と診断された。血液及び脳脊髄液から豚レンサ球菌が検出された。渡航歴はない。本症例は2010年の10例目の症例である。
90	レンサ球菌感染	第53回日本感染症学会中日本地方会 学術集会2010; 48	タイにおけるブタレンサ球菌serotype2のジェノタイプと病型に関する検討について報告された。Streptococcus suis(SS)serotype2感染症は、北タイに特有のブタ生肉、生血摂取の食習慣により発病するとされる新興人獣共通感染症である。2006年から2008年にタイNIHにおいて収集された血液、髄液由来株のレンサ球菌1154株から117株のSSを同定した。うち165株(93.2%)はSS2であることが判明した。さらにMLST解析により、SS ¹ 165株中134株(81.2%)は北タイ由来で、sequence type1(ST1,63%)、ST104(24%)、ST25(6.7%)の順に多かった。また、SS感染症158例の臨床カテゴリーは58.9%が髄膜炎、41.1%が非髄膜炎に分類された。ブタ生肉の摂取やブタへの直接曝露は39.9%に認められた。SS2感染症において、敗血症はST1、ST104のいずれでも発症するが、髄膜炎は主にST1に起因することが明らかになったと報告された。
91	炭疽	ProMed-mail 20100626.2132	2010年6月23日、Kazakhstanにおける炭疽感染2症例目が報告された。症例は女性で、6月21日に死亡した。炭疽アウトブレイクの原因は、病気の雄牛1頭を殺処分し、その牛肉をKarakolとRebrovkaの住民に配布したことである。6月11日には、雄牛を殺処分した男性はすでに病気になるに至っていた。6月19日、男性は入院し、翌日死亡した。また、最近死んだ女性などの他の患者も入院しており、炭疽感染が確認された症例5例は依然病院にいる。
92	炭疽	ProMed-mail 20100715.2371	2010年7月15日、コートジボアールにおける炭疽感染について報告された。炭疽アウトブレイクによりBouna地域の住民5人が死亡した。声明によると、家畜の群れが誘因であり、症例は病畜と接触していたとのことである。
93	炭疽	ProMed-mail 20100831.3094	2010年8月30日、Kenyaにおける炭疽感染症例について報告された。症例は、感染食肉を食べた後に死亡。感染食肉を食べた死亡症例1例及び他8例は入院中。死亡した1症例はショッピングセンターで肉を食べて自宅に戻り、少し後で胃痛が出現した。他の入院症例らは安定。
94	炭疽	ProMed-mail 20100923.3441	2010年9月23日、Bhutanにおける炭疽感染死亡例について報告された。2010年9月15日、Zhemgangにて少なくとも1例が肺炎炭疽感染疑いで死亡し、約8例が皮膚炭疽を発症した。炭疽感染アウトブレイクにより、計ウシ25頭、馬/ラバ8頭、豚4匹、ネコ6匹が死亡した。当局によれば、dzongkhagの第1回目の炭疽アウトブレイクはPanbang dungkhag地域Bloktong村の畜牛の群れで発生した。2010年7月の第2週目に、群れ由来の乾燥肉がPongchanling村の建築労働者に提供され、2、3週間後Pongchanlingで乾燥肉を摂食した豚1頭が死亡した。さらに同一農場主のKagtong村の畜牛においても一連の死亡が発生し、ウシ7頭が死亡した。死亡したウシ由来の肉が農場主の隣人に売られ、摂食された。その後、この農場主と死体に接触した人らに皮膚病変が発現し、腕・足の腫脹や腹痛が発現する者もいた。2010年8月25日、第2回目の炭疽アウトブレイクがNarang村で発生し、馬3頭、ウシ7頭が死亡した。2010年8月28日、別の炭疽アウトブレイクがDophu村で発生し、ウシ4頭が死亡した。
95	サルモネラ	Der Internist 2010.1-4	生豚肉摂取後の腎移植患者において発現した敗血症性ショックについて報告された。2009年1月39.5度の発熱のある症例(66歳、男性)が医療機関に搬送された。症例は3日前に生豚肉を摂取していた。既往歴は冠疾患、インスリン依存型糖尿病であった。また糖尿病性腎症による末期腎不全の為に13年前に腎移植が行われていた。入院2日後に便及び血液検体からSalmonella enteritidisが検出された。腎移植から13年経過していたにも関わらずタクロリムスによる単剤免疫抑制療法下でSalmonella enteritidisに基づく敗血症性ショックが発現したことから、臨床的にサルモネラ症と免疫抑制療法との関連を示唆する初の症例であると考えられる。
96	サルモネラ	ProMED 20100915.3343	アイルランドでアヒル卵を摂取することによるサルモネラ症計24例が報告され、アイルランドで近年記録された食中毒の中でも最大規模の流行となっている。感染者の年齢層は生後5カ月~80歳にわたり、最近の症例は裏庭や個人農場から得られたアヒル卵を摂取したことから感染に至っている傾向がある。これを考慮してアイルランド当局では、2010年9月14日、アヒル卵の安全な摂取法に関する助言を行った。また、アヒル卵に触った後の手洗い等の衛生管理を継続することの重要性について警告している。サルモネラネズミチフス菌DT8感染の症状は、嘔吐や下痢による軽度の症状から生命を脅かす疾患に変化してきている。乳児や妊婦、高齢者や病人は最も危険にさらされているため特に注意が必要である。この食中毒の集団発生に鶏卵は関係していない。
97	コレラ	MMWR Vol. 59	ハイチでコレラのアウトブレイクが発生し、2010年10月27日時点で303名の死亡が報告された。2010年10月21日Vibrio cholerae O1-serotype Ogawa-biotype E1 Torが同定された。2010年10月27日現在で4,722人が発症し、うち303名に死亡が報告された。ほとんどの症例がArtibonite Departmentで報告されているが、首都のあるQuest Departmentを含む他の地域にも症例が認められている。
98	コレラ	news.xinhuanet.com/english2010/health/2010-11/29/c_13626736.htm	2010年11月28日、ドミニカ共和国から7例目のコレラの症例が報告された。これまでの全ての症例は極度の貧困で適切な衛生設備のないRio Ozamaに居住している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
99	細菌感染	Asahi.com 2010年10月28日	多剤耐性菌の感染例について、中国で3人の感染例について報告された。中国疾病予防抑制センターは北京で26日、ほとんどの抗生剤を効かなくさせる酵素「NDM1」の遺伝子を持つ新種の菌「NDM1多剤耐性菌」に関するブリーフィングを行った。中国では多剤耐性菌の感染例がすでに3人確認されている。感染が確認されたのは寧夏回族自治区と福建省。中国疾病予防抑制センターと中国軍事医学科学院がこれまでに収集した菌株を検査したところ、計3株のNDM1遺伝子陽性株が検出された。寧夏で感染したのは3月8日と3月11日に同自治区の県級病院で生まれた新生児2人。いずれも低出生体重児だという。それぞれ9日間と14日間の治療を受けた後、完治して退院した。福建省では83歳の高齢者が多剤耐性菌の一種「多剤耐性アシネトバクター(MRAB)」に感染した。福建省の患者は死亡した。MRABは環境水中や腸内に広く生息し、免疫力が低下したときに感染する条件性病原菌の一種。患者の直接の死因は末期がんと診断されており、MRAB感染が病状悪化に及ぼした影響はまだ明らかになっていない。中国では現在のところ、NDM1多剤耐性菌の感染による死亡例は確認されていない。
100	細菌感染	Lancet Infect Dis. 2010 Sep;10(9):597-602.	インド、パキスタン、英国での新規抗生物質耐性メカニズムの出現: New Delhi metallo-β-lactamase 1 (NDM-1)によるカルバペネム耐性グラム陰性腸内細菌は、世界的に重大な健康問題となる可能性があるため、インド、パキスタン、英国の多剤耐性腸内細菌におけるNDM-1陽性率を調査した。チェンナイ(南インド)、ハリヤーナー(北インド)で腸内細菌の分離株を対象として抗生物質の感受性を評価し、カルバペネム耐性遺伝子 blaNDM-1の存在がPCRによって明らかになった。分離株はパルスフィールドゲル電気泳動法で、またプラスミドは、S1ヌクレアーゼ分解およびPCRによって解析された。英国患者については、インドまたはパキスタンへの渡航および最近の入院の有無を調査した。NDM-1産生分離株は、チェンナイ 44株、ハリヤーナー 26株、英国 37株、その他のインド、パキスタン地域で73株が確認された。NDM-1は、ほとんどがEscherichia coli (36株)と Klebsiella pneumoniae (111株)に見つかり、チゲサイクリンとコリスチン以外の抗生物質に高度耐性があった。ハリヤーナーから分離したK.pneumoniae分離株は遺伝的に均一であったが、英国およびチェンナイの分離株は遺伝的多様性を示した。ほとんどの分離株は、プラスミド上にNDM-1遺伝子を有し、英国およびチェンナイ分離株では受容株に容易にプラスミドが伝達されたが、ハリヤーナーの分離株は伝達性がなかった。英国のNDM-1陽性患者の多くは、前年にインド、パキスタンへの渡航歴があるか、これらの国と関連があった。
101	細菌感染	ProMED-mail 20100803.2607	米国研究グループが重篤な症状を引き起こす、新たな薬剤耐性大腸菌(ST131株)の出現について、Clinical Infectious Diseases誌に報告した。新株ST131は、2007年米国で抗生物質耐性の重症大腸菌感染症の主な原因であることが明らかにされた。この株は複数国で報告されており、米国全土にわたり発見されている。2007年、全米の入院患者より収集し、分析した結果、ST131分離株54株が同定され、その内67%から69%がフルオロキノロンや広域スペクトラムセファロスポリンに対して耐性であった。過去において、毒性の強い大腸菌株は、通常抗生物質に感受性があり、一方、耐性菌は病気を引き起こす能力といった点ではそれほど強くなかった。感受性のある株は重度の感染症を引き起こすが、容易処置された。耐性菌は多くの場合、免疫低下者や易感染状態の患者に影響を及ぼす傾向があった。研究結果から、ST131株には強い毒性と抗生物質に対する耐性があることが示唆された。
102	細菌感染	ProMED-mail 20100817.2853	各国における2010年のNDM-1保有エンテロバクターの報告。①ベルギー: 8月13日、男性1人が南アジアでsuperbugと呼ばれる薬物耐性による初の死亡症例が報告された。2例目はモンテネグロ旅行中に事故に遭い、入院した後に感染した。ベルギーで加療後、回復した。②ドイツ: 8月16日、細菌に対して「ほとんどの抗生物質」耐性を付与する酵素がドイツに到達したことが報告された。③インド: 8月14日、2009年8月-11月の間に24例のうち22例がNDM-1に感染していた。④オーストラリア: 8月16日、今週superbugという新規でかつ強力な細菌に患者が感染していると当局から警告が発出された。研究より、あらゆる抗生物質に耐性を示す、NDM-1遺伝子を保有する細菌が2009年に発見され、37人の患者が感染していたことが示された。
103	細菌感染	ProMed-mail 20101101.3954	2010年10月29日、イギリスにおけるレプトスピラ症の死亡について報告された。2010年10月24日、漕艇オリンピックチャンピオンの51歳男性が水系細菌感染症疑いで死亡した。鼠と牛などの感染動物の尿で汚染された水に曝露した後に感染したと考えられる。
104	細菌感染	USA TODAY. Available from: http://www.usatoday.com/yourlife/health/medical/2010-09-17-1Asuperbug17_ST_N.htm	抗生物質の機能を阻害する酵素Klebsiella pneumoniae carbapenamase (KPC)を産生する遺伝子を備えた強力な薬剤耐性菌が米国の35州を超える病院で報告されている。この細菌は重篤な疾患患者を襲い、死亡率は全症例の30~60%に及ぶ。米国疾病管理予防センター(CDC)によると、New Delhi metallo-β-lactamase 1 (NDM-1)は米国では稀であり、KPCの方がはるかに一般的で、現在では米国の半分以上の州で報告されているという。この細菌に対する唯一の薬にポリミキシンがあるが、腎臓に有毒であるため数年前からほとんど使用されていない。従って予防は極めて重要である。2009年3月にCDCは予防に関する新しいガイドラインを示し、特にカルバペネム耐性菌感染症と診断される患者を治療する医師は、ガウンと手袋を着用して自身を守るとともに、他の患者への感染を防がなくてはならないとしている。
105	細菌感染	www.news-medical.net/news/20110103	オーストラリアにおける猫のノミからヒトに細菌感染した初の症例について報告された。症例はノミが寄生した子猫に接した後にRickettsia felisに感染した家族で認められた。子供3人と大人1人が発熱と発疹で入院し、うち子供1人については重篤であった。
106	細菌感染	www.washingtontimes.com/news/2010/sep/7/japan-confirms-its-first-case-of-new-superbug-gene/	日本初のsuperbug (NDM-1を産生する、新たなタイプの多剤耐性菌)症例が報告された。細菌を薬剤耐性菌に変化させる新たなNew Delhi metallo-β-lactamase 1 (NDM-1)遺伝子が日本で初めて、インドで治療を受けた50歳代日本人男性に確認された。この遺伝子はほとんどすべての抗生物質に耐性となるよう細菌を変化させる。この遺伝子は主に病原性大腸菌で見られ、他のタイプの細菌に容易に伝播することが出来るDNA構造を有している。当該男性はインドで内科治療を受け、帰国後の2009年4月に入院した。男性がインドで受けた治療は公表されなかった。男性は入院中に高熱を出したが、2009年10月に退院した。病院はsuperbug (NDM-1を産生する、新たなタイプの多剤耐性菌)を疑い検体を保管、検査し、NDM-1遺伝子の検出について、厚生労働省に届け出た。院内感染は認められていない。日本初のNDM-1症例確認後、厚生労働省は全国調査を開始した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
107	細菌感染	第64回日本細菌学会東北支部総会 (2010.8.19-20)	子ウシとの接触が原因と示唆されるクリプトスポリジウム感染症事例の発生状況と遺伝子学的解析について報告された。2009年6月下旬、上十三保健所轄内の学生数名が、下痢、嘔吐などの症状を訴え医療機関を受診し、発症者13名中10名から採取した糞便からクリプトスポリジウムのオーシストが検出され、遺伝子型・塩基配列から9検体は全て同じであり、共通した感染源と示唆され、疫学調査と併せて子ウシからの感染であることが推定された。
108	真菌感染	J. Clin. Microbiol. 48(4), 1076-84, 2010	北及び中央イタリアの医療機関から分離された皮膚や他のヒト病原性Fusariumの分子系統学的多様性について報告された。北及び中央イタリアで爪真菌症、爪囲炎、及び他のFusariumなどの皮膚感染と関連のある種のスペクトルや循環している遺伝子型を特徴付けるために、2004年から2007年間のイタリア人患者50例から単離された58のfusariaを多遺伝子座として解析対象とした。遺伝子型から、単離されたfusariaはほぼ均等にFusarium solani species complex (FSSC, n=18)、F. oxysporum species complex (FOSC, n=20)、Gibberella fujikuroi species complex (GFSC, n=20)に分類された。FSSCの3遺伝子座タイピング体系に新規の18STs (sequence types)が使われており、系統発生的に異なる6種に配列が認められた。FOSCの2遺伝子座では9STs (4つが新規、SST33は9分離)がこれまでに幅広いクローナル派生に認められている。GFSCの2遺伝子座タイピング体系はF. verticillioidesとして17株、F. sacchari 2株、F. guttiforme 1株に認められた。本研究により、パイナップルを宿主とするF. guttiformeによる初めてのヒト感染例が確認された。
109	真菌感染	第54回日本医真菌学会総会、2010/10/16-17、p84	Arthroderma vanbreuseghemiiによる顔面白癬1例について報告された。症例は9歳女児。主訴：右顔面の紅斑。現病歴：2009年9月初旬、右頬部に虫刺様皮疹が出現、ステロイド外用にて改善せず、前額部と顎部にも類似の皮疹が出現し、拡大。現症：前額部、右頬部に、痒みを伴う境界明瞭な落屑性紅斑が認められる。遠心性拡大傾向があり、一部に丘疹を伴っていた。菌学的所見：スライド培養にて、Trichophyton mentagrophytes所見が認められた。本菌株はリボソームRNA遺伝子のinternal transcribed spacer領域の塩基配列の相同性からArthroderma vanbreuseghemiiと同定。
110	真菌感染	第54回日本医真菌学会総会、2010/10/16-17、p86	Arthroderma vanbreuseghemiiによる顔面白癬1例について報告された。症例は10歳女児。主訴：左手、顔面、頭皮の皮疹。経過：初診の2か月前に左手掌に掻痒を伴う皮疹が出現。近医受診にて抗生剤含有軟膏、ステロイド剤を外用するも軽快せず、顔面にも皮疹が拡大。顔面・左手・頭部の皮疹のいずれからもKOH直接鏡検で菌糸を認め、真菌培養で糸状菌の発育を確認した。スライド培養、巨大培養、さらに分離培養株の遺伝子解析をした結果、リボソームRNA遺伝子のinternal transcribed spacer領域の塩基配列の相同性からArthroderma benhamiaeと同定。皮疹出現前に、動物園でウサギ、モルモットとの接触や、田植えの際の土壌曝露の既往があることから、動物または土壌からの感染が疑われた。
111	真菌感染	第54回日本真菌学会総会 (2010.10.16-17)	顔面に生じたTrichophyton verrucosumによる白癬2例について報告された。1例目は1歳8か月の女児。分離菌はT. verrucosumであり、飼育されているウシからも同菌が分離同定され、ウシから父、父から症例への感染が考えられた。2例目は58歳女性、畜産業者。分離菌はT. verrucosumと同定され、飼育されているウシからも同菌が分離同定された。T. verrucosum感染症の報告は最近20年間に本邦では自験例を含み27例とまれであるが、畜産がさかんな地方では、本症の臨床的な知識が必要であると考えられる。
112	人畜共通感染症	Clinical Medicine. 10:517-518, 2010	豚足肺、Pasteurella multocidaの新規の家庭内感染について報告された。Pasteurella multocidaは非運動性、嫌気性グラム陰性桿菌である。これまでに考えられていなかった、豚足の家庭料理を介した人畜間伝播経路が報告された。
113	感染	CDC/MMWR 59(36);1165-1170	2009年12月14日、ミシシッピ州で、同一ドナーからの腎臓移植レシピエント2名が移植により脳炎を発症した可能性があると米国疾病管理予防センター (CDC) に報告された。CDCはドナーの剖検脳組織からアメーバを発見し、その後、ドナー及びレシピエント2名由来の検体における検査により、パラムチア・アメーバ性肉芽腫性脳炎 (GAE) の伝播が確認された。これはBalamuthia mandrillarisに起因する稀な疾患である。レシピエント2名のうち1名 (31歳女性) は死亡し、もう1名 (27歳男性) は右腕、両脚、視力に後遺症があるが生存している。同一ドナーから心臓移植と肝臓移植を受けたレシピエントには感染の徴候は見られていない。ドナー (4歳) はインフルエンザA感染症を発症後、急性散在性脳脊髄炎で死亡したと推定される。これは臓器移植によるパラムチア感染症の初めての報告である。
114	感染	Health Protection Report vol.4 No.29 (23 July 2010)	2009年1月1日から12月31日までにNHS Blood & Transplant/HPAに対して輸血による感染症 (TTI; transfusion transmitted infection) が疑われる報告が39件あり、調査の結果、2件がTTIと確定 (細菌感染)、30件はTTIでない、4件は不明、3件は調査完了を待つこととなった。
115	感染	Parasitology International 59(2010)626-628	アルゼンチンNeuquén地域におけるエキノコックスの分子疫学を調査した結果が報告された。Neuquén地域では高頻度にEchinococcus canadensis (G6遺伝子型) のヒトへの感染が認められている。E. canadensis (G6) を保有する動物を同定するために、現地のヤギ、豚及び羊から得られた包虫嚢胞、及び感染した犬から得られた嚢虫について繁殖能力、生存能力、分子疫学を調査した。ヤギ、豚及び羊の繁殖能力は各78.6%、90.4%及び94.4%であった。ヤギの21/23匹及び犬1/10匹においてE. canadensis (G6) が同定された。また豚18/18匹でE. canadensis (G7)、羊1/16匹でE. granulosus sensu stricto (G3)、羊15/16匹、ヤギ2/23匹及び犬9/10匹ではG1遺伝子型が同定された。以上より、Neuquén地域においてはヤギがE. canadensis (G6) の保有動物であることが考えられた。
116	感染	Parasitology International 59(2010)638-642	ポルトガルの中内陸地域のいにおけるEchinococcus granulosus株G1-G3の遺伝子クラスターの優位性について報告された。Echinococcus granulosusの幼虫による感染は嚢胞性エキノコックス症あるいは包虫症として知られている獣医学及び医学的に重要な人畜共通感染症の一つである。ヒツジ及びウシの肝臓、肺から寄生虫のサンプル (包虫嚢胞 n = 27) を分離し、データバンクの相同配列とのホモロジー検索により、エキノコックス株のG1、G3および/またはG1 - G3複合体と非常に高い類似性を示した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
117	感染	The American Journal of the Medical Sciences 340(3) 187-193 2010.9	<p>ヒトの新興感染症の大半は家畜、野生動物に由来する人畜共通の病原体に関連している。人畜共通感染症は社会に様々な面から影響するため、公衆衛生上の懸念となっている。また病原体、宿主、環境間における複雑な相互作用が、人畜共通感染症の真の負担の評価を困難なものにしている。しかし、最近開発された新しい分子診断ツールによって人畜共通感染症のより優れた診断が可能となった。ここでは、トキソカラ症、ウシ結核、Southern tick-associated rash illness(STARI)の3つの新興人畜共通感染症に焦点を当て、これらの感染症がアメリカ南部でこれまでよりも流行している可能性について論じる。本レビューは近年の疫学的傾向、種内/種間伝染、各疾患の臨床的特徴、さらに治療と各病原体の予防について論じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トキソカラ症: イヌ・ネコを宿主とするセンチュウによる疾患。 ・Southern tick associated rash illness: ライム病様のダニ媒介性皮膚炎 ・ウシ結核: <i>Mycobacterium bovis</i>による疾患で、未消毒の乳製品の摂取、畜牛との接触、シカの狩猟・解体により人に感染する。
118	感染	時事通信2010/7/9	<p>京都大学霊長類研究所(愛知県犬山市)のニホンザルが2008年3月～10年4月に38匹、01年7月～02年7月に6匹が原因不明の出血症で死亡した。ニホンザル以外のサルやヒトへの感染は確認されていない。ニホンザル特有の未知の病原体による感染症の疑いが強いとして、調査中である。</p>
119	感染	第54回日本医真菌学総会 (2010.10.16-17) p.63	<p>中国第1例となった再発性多発性軟骨炎患者から分離された <i>Nocardia concava</i> の同定について報告された。放線菌 <i>Nocardia concava</i> は1991年、日本の高齢患者から分離され、2005年に新種として報告された菌種である。中国の再発性多発性軟骨炎患者(42歳、男性)に対して、ステロイド薬、抗生物質、免疫抑制薬にて加療中に、眼痛、眼球結膜の充血、耳介の腫脹、高熱の持続が発症し、患者血液培養から <i>Nocardia concava</i> の type 株が分離された。塩基配列解析、系統解析から本分離株を <i>Nocardia concava</i> と同定した。</p>
120	感染	第54回日本医真菌学総会 (2010.10.16-17) p.75	<p>静脈血から分離された二形性の形状を示す <i>Phialemonium</i> 属菌について報告された。 <i>Phialemonium</i> 属菌は工場用水、活性汚泥、食品工場などから分離され、ヒトへの感染症起因菌としても注目されている。今回分離した株は28S rDNA及びITS領域の解析により、 <i>P. curvatum</i> であることが判明した。海外では <i>P. curvatum</i> によるカテーテル感染、血液透析に関連した感染例が多く報告されているが、国内では初の報告である。</p>